

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																								
新潟工科専門学校	平成5年12月6日	仁多見 透	〒 950-0932 (住所) 新潟市中央区長潟2-1-4 (電話) 025-287-3911																																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																								
学校法人国際総合学園	昭和32年10月22日	池田 祥護	〒 951-8063 (住所) 新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565																																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																							
工業	工業専門課程	インテリアデザイン科	平成23年文部科学省 告示第166号	—																																							
学科の目的	建築とインテリアを両方学び、快適な室内空間を創り出す「デザインのプロ」と建築物の構造を把握した上で施工スキルを磨く「内装施工のプロ」を目指します。又、手書きのパスやCGを使った画像など幅広いプレゼンテーションの技法や、お客様の要望に応える室内設計の技術、現場に即した内装技術の実習などを通じてインテリアデザイナー・アドバイザー・施工技術者を目指すことを目的としています。																																										
認定年月日	平成26年3月31日																																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																				
2年	昼間	1744	720	80	944	0	0																																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																						
40人	52人	0人	1人	9人	10人																																						
学期制度	■前期:4月1日～9月20日 ■後期:9月21日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:																																							
長期休み	■GW期間:4月29日～5月5日 ■夏季:7月31日～8月15日 ■冬季:12月25日～1月10日 ■春季:1月31日～3月31日		卒業・進級 条件	卒業要件:																																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的に状況確認、また、その状況に合わせ指導・アドバイスを行う		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 各種ボランティア、地域活性化のための活動、献血 ■サークル活動: 有																																							
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 建設会社、工務店、家具メーカー、イベント・展示会装飾設計・施工 ■就職指導内容 就職実務科目の設定、面接会・就職セミナーの実施、担任・進路相談室の支援 ■卒業生数 31 人 ■就職希望者数 23 人 ■就職者数 23 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 74 % ■その他 ・進学者数: 6人 (令和 4 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インテリアコーディネーター</td> <td>③</td> <td>24</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>建築CAD検定3級</td> <td>③</td> <td>23</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>カラーコーディネーター3級</td> <td>③</td> <td>22</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>商品装飾技能検定初級</td> <td>②</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 JAPANTEX 入賞18名				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	インテリアコーディネーター	③	24	6	建築CAD検定3級	③	23	14	カラーコーディネーター3級	③	22	13	商品装飾技能検定初級	②	7	7																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																								
インテリアコーディネーター	③	24	6																																								
建築CAD検定3級	③	23	14																																								
カラーコーディネーター3級	③	22	13																																								
商品装飾技能検定初級	②	7	7																																								
中途退学の 現状	■中途退学者 2名 令和4年4月1日時点において、在学者56名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者54名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 その他 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制・スクールカウンセリング体制の採用		■中退率 4%																																								
	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入																																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- 教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針を次のとおりとする。
1. インテリアデザイン科は「建築とインテリアの両方を学び、建築物が理解できるインテリアデザイナー」をコンセプトとして掲げている。その為、インテリアに特化した有識者、技術者ではなく両分野に詳しい有識者、技術者の参画を基本として組織する。
 2. 企業や業界団体からは建築とインテリア両面を理解できる分野からの参画を図る。
 - ◆リフォーム業を主とする企業(工務店)
 - ◆設計監理を主とする企業(建築設計事務所)
 - ◆施工管理を主とする企業(建設会社)
 - ◆汎用性と最新性を考えてのCADソフトの指導が可能な企業
 - ◆建築士による建築文化の進展と社会公共の福祉増進を目的とした団体組織(建築士会)
 - ◆これからの成長戦略の柱となるエネルギー分野の企業、団体(設備会社、地方公共団体)
 3. インテリアデザイン科の目指す人材像、目標資格、カリキュラムの相互理解に努める。
 - ◆インテリアデザイン科は室内空間のコーディネートを柱として建築構造も理解できる人材育成を目指していることへの理解。
 - ◆インテリアデザイン科で取得すべき資格・検定を理解。
 - ◆インテリアデザイン科のカリキュラム内容を理解。
 4. インテリアデザイン科の目指す人材像を理解すると共に、各分野の専門企業・団体の立場から現在及び将来求められている職業人としての資質をカリキュラム編成に反映する。
 5. 学校はそのカリキュラム編成としての意見を集約し改善する。
- 以上

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

1. 学校長は、教育課程編成委員会を設置、会議を開催する。
2. 委員はカリキュラムの改善討議を行い、意見を提出する。
3. 意見に基づき、教務部は次年度カリキュラムへ変更を反映し、学校長に提案する。
4. 学校長は改善したカリキュラムを会議にて報告、委員は更なる改善討議を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
仁多見 透	新潟工科専門学校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
久代 英俊	新潟工科専門学校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
渡部 和久	新潟工科専門学校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
池田 保紀	新潟工科専門学校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
星野 麻子	新潟工科専門学校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
田中 隆司	公益社団法人 新潟県建築士会	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
大井 淳	株式会社 大井	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
小倉 睦巳	株式会社 国際総合計画	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月16日 10:00~12:00

第2回 令和5年3月16日 10:00~12:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

建築の現場においてインテリアと仕事をする機会が多い。工法や耐久性など、ある程度の基本的な建築知識においてはデザイン性を求める。インテリアでも図面を理解し、打ち合わせでも、対等に話ができるよう構造や材料についての基本知識は必要である。(平原先生)

専攻科進学を目標にする学生も増えている。建築の基本についての習得の重要性について、学生への意識付けをより取組む必要がある。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会の意見をもとに改善されたカリキュラムで、その分野で現在活躍している専門技術者を有する企業から派遣された講師により直接指導を受ける。それにより、最先端の技術を身に付け、社会が求める職業人としての能力と人間力を修得することを基本とし、以下の手順で連携を進めていく。

1. 企業から派遣された知識・技術・経験を有する専門技術者が指導にあたる。
2. 学校の教育方針と社会のニーズを明確にし、授業内容を検討する。
3. 授業開始前にシラバスを作成し、学生に伝達する。
4. 学生の個々のニーズ(学生が目指す職種)に応じた指導を心がける。
5. 評価について、担当専任教員と協議し学生へフィードバックする。
6. 評価を基に学生に対しアドバイスすることで今後の学習に繋げる。
7. 結果を分析し、教育課程編成委員会へフィードバックし、カリキュラム編成に役立てる。

以上

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

【授業名】:カラーコーディネーション

【連携企業】:株式会社 白木蓮

【連携内容】:色彩検定の資格をもつフラワーアレンジメントのプロより以下の内容を指導。又、学生の授業態度、提出物、出席状況の結果を総合的に評価してもらう。

【指導内容】:色彩の基礎を演習を通して学び、カラーコーディネーター検定試験の合格を目指しインテリアコーディネーター業務に活かす。

【授業名】:設計製図A

【連携企業】:有限会社 新装工業

【連携内容】:リフォーム企業の技術者より以下の内容を指導。又、学生の授業態度、提出物、出席状況の結果を総合的に評価してもらう。

【指導内容】:木造の作図法や各種図面の役割を理解し住宅のリフォーム技術の習得に役立てる。

【授業名】:設計製図B

【連携企業】:有限会社 新装工業

【連携内容】:リフォーム企業の技術者より以下の内容を指導。又、学生の授業態度、提出物、出席状況の結果を総合的に評価してもらう。

【指導内容】:RC造の作図法や各種図面の役割を理解しマンションやアパートのリフォーム技術の習得に役立てる。

【授業名】:インテリア家具製作I

【連携企業】:株式会社 石崎建具家具製作所

【連携内容】:家具職人より以下の内容を指導。又、学生の授業態度、提出物、出席状況の結果を総合的に評価してもらう。

【指導内容】:小物の家具(椅子、テーブル、棚など)の製作過程とその方法を習得する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
カラーコーディネーション	色彩の基礎を演習を通して学び、カラーコーディネーター検定試験を受験する。	(株)白木蓮
設計製図A	建築製図法、木造図面の書き方(平面図、断面図、立面図)を学習し、オリジナル木造住宅の作図を行う	(有)新装工業

設計製図B	RC造の図面の書き方(平面図、断面図、立面図)を学習し、RC造特殊建築物のプランニング及び作図を行う	(有)新装工業
インテリア家具製作 I	インテリア木工家具製作(椅子、テーブル、棚)	株式会社 石崎建具家具製作所

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員(専任教員、兼任教員)は常に企業等と連携し、専門分野における最新の知識と技術の習得に向けて次のようなことを基本方針とする。

1. 年度が始まる前に身に付けたい知識・技術など以下の項目から目標設定する。

- ◆インテリア系検定(家具、照明、色彩、雑貨)
- ◆CAD操作技術
- ◆内装施工技術(床材、壁紙、タイル、塗装)
- ◆店舗事例の調査・研究(流行店舗、古民家、文化財的建築など)
- ◆施工管理技術
- ◆省エネ技術(スマートグリッド、スマートハウスへの応用)
- ◆省エネ知識(建築関連の省エネ法の改正に向けた動向)
- ◆学校運営における基本的知識(学生指導、人材育成、経営意識など)

2. 事前に年間行われる研修・セミナーなどの調査を行う。

3. 研修・セミナー受講スケジュールを計画する。(計画については教務部に提出)

4. 研修・セミナー受講後は学生指導、学科運営にどのように活かせるか検討する。

5. 研修・セミナーで得た知識や情報を他の教員と共有し学校全体での学生指導に活かす。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	オンライン海外研修	連携企業等:	ライトハウス
期間:	2022年10月12日・26日	対象:	建築系教員
内容	インテリアデザイン講座(アメリカ国内外で手掛けているインテリアプロジェクトについて)		
研修名:	アクティブ・ケア	連携企業等:	株式会社 業インテリアスタイリング
期間:	2022年11月17日	対象:	インテリアデザイン科 教員
内容	人のカラダとココロにやさしい空間づくりを学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	Ed-Techによる教育の未来	連携企業等:	デジタルハリウッド大学院
期間:	2022年9月6日	対象:	専門学校教員
内容	ICTを教育にどう取り入れるか		
研修名:	「SNSのリスク」研修	連携企業等:	株式会社エルテス
期間:	2022年9月27日	対象:	卒年次指導教員
内容	就職活動時や就職後のSNSのリスクの指導のポイント		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	アクティブ・ケア	連携企業等:	株式会社 業インテリアスタイリング
期間:	2023年12月15日	対象:	インテリアデザイン科 教員
内容	人のカラダとココロにやさしい空間づくりを学ぶ		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	1900年1月0日	対象:	0

内容	0		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	生成AI活用 勉強会		
期間:	2023年9月6日		
内容	生成AIでの建築・インテリアデザインの現状、事務作業への活用方法		
研修名:	0		
期間:	1900年1月0日		
内容	0		
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1) 学校関係者評価の基本方針			
<p>学校が、実践的な職業教育等を目的とした自ら教育活動その他の学校運営について、目指す目標を設定し、その達成状況に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、学校として組織的、継続的な改善が図られる。又、学校が、自己評価及び関係業界など学校関係者から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりが進められる。そして、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の実践的な職業教育の質を保証し、向上が図られる。以上を基本理念とし、次の項目を基本方針とする。</p> <p>1. 学校は、学校関係者として、卒業生、関連企業、高校から委員を選任し学校関係評価委員会を組織する。</p> <p>2. 学校長は年1回以上学校関係者評価委員を招集し、学校関係者評価委員会を開催する。</p> <p>3. 学校が行う自己点検評価、授業アンケート、学校向上アンケートをもとに、学校関係者評価を行う。</p> <p>4. 学校関係者評価委員会は学校が行った自己点検評価結果に対して次の項目を基本評価項目とする。</p> <p>A 自己点検評価の結果の内容が適切かどうか</p> <p>B 自己点検評価の結果を踏まえた今後の改善策が適切かどうか</p> <p>C 学校の重点目標や自己点検評価の評価項目が適切かどうか</p> <p>D 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか</p> <p>5. 学校関係者評価委員会は評価結果報告をまとめ、学校に報告する。</p> <p>6. 学校は学校関係者評価委員会の報告を受け学校運営の改善に努める。</p> <p>以上</p>			
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目		
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像 等		
(2) 学校運営	理念に沿った運営方針・事業計画 等		
(3) 教育活動	教育課程の編成方針、実施方針、教員の組織体制 等		
(4) 学修成果	就職率・資格・免許取得率の向上策 等		
(5) 学生支援	就職等進路に関する支援組織体制、学生相談体制 等		
(6) 教育環境	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具 等		
(7) 学生の受入れ募集	学生募集を適切に、かつ、効果的に行っているか 等		
(8) 財務	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤 等		
(9) 法令等の遵守	法令を遵守し、適正な学校運営を行っているか 等		
(10) 社会貢献・地域貢献	教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 等		
(11) 国際交流	-		
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3) 学校関係者評価結果の活用状況			
<p>(委員) 令和1年度もiPadを活用しているが更に教育効果の高い活用法を検討してほしい。更に建築デザイン科においてはDX推進に取り組むことを期待したい。</p> <p>(学校) 建築士学科、建築デザイン科、インテリアデザイン科においては最新のCADソフトを導入し実務型教育を実践している。今後はVRやMRの活用も行う。</p>			
(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
名前	所属	任期	種別
大場 秀樹	株式会社 総合資格 新潟校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
本間 潤一	株式会社 クレイズブラン	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
近藤 一彦	株式会社 イートラスト	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
小林 恵一	株式会社 イートラスト	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業等委員

竹田 隆行	学校法人大彦学園 開志学園高等学校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	高校教員
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等			
(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()) URL: https://www.nit-web.net/ 公表時期: 2023年7月1日			
5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係			
(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針 企業等の学校関係者に対する情報提供において次の項目を基本とする。 1. 学校情報、資格取得状況、課外活動状況、イベント実施状況など、年間の中で随時更新される内容についてはHPで公開する。その際にできるだけリアルタイムな情報提供に努力する。			
(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの項目		学校が設定する項目	
(1)学校の概要、目標及び計画	校訓・教育目標		
(2)各学科等の教育	収容定員・在学年数・カリキュラム・資格取得実績・卒業後進路		
(3)教職員	常勤教員・職員・非常勤教員		
(4)キャリア教育・実践的職業教育	実践的職業教育・実習・就職支援等の取組状況		
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事・課外活動への取組状況		
(6)学生の生活支援	充実した学生生活を支援する様々なサポート体制		
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い・活用できる経済的支援措置の内容		
(8)学校の財務	計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表)		
(9)学校評価	自己点検評価、学校関係者評価の結果		
(10)国際連携の状況	-		
(11)その他	-		
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)情報提供方法 (ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()) URL: http://www.nit-web.net 公表時期: 2022年7月1日			

授業科目等の概要

(工業専門課程インテリアデザイン科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		建築計画Ⅰ	各部の寸法 集合住宅計画、地域計画について学習する	1通	32	2	○			○		○		
2	○		建築計画Ⅱ	各種建築物の各論（事務所、商業施設、公共施設、児童福祉施設など）について学習する	2前	32	2	○			○		○		
3	○		建築史	日本建築史、西洋建築史、近代建築史について学習する	1通	32	2	○			○			○	
4	○		住宅計画演習	住宅の計画について学習し、住宅を設計できるように学習する	1前	32	2		○		○		○		
5	○		環境工学	室内環境、人体の温熱感覚、戸外の気候、気温、湿度、日射、熱伝熱、断熱、結露、採光、照明、換気と通風、音、振動の各種分野について学習する	1通	32	2	○			○		○		
6	○		建築設備	総論、給水設備、排水設備、給湯設備、ガス設備、消火設備、空調設備、電気設備	1通	32	2	○			○			○	
7	○		構造力学Ⅰ	力の合成・分解、力のモーメント、力の釣合い、反力・応力、静定梁の解法、静定ラーメンの解法を学習する	1通	64	4	○			○			○	
8	○		構造力学Ⅱ	静定トラスの解法、応力度、断面の性質、不静定構造物の解法を学習する	2通	32	2	○			○			○	
9	○		一般構造Ⅰ	木構造（基礎、力学的性質、物理的性質、継手と仕口、金物類）について学習する 各部構造（屋根、壁、天井、その他）について学習する	1通	32	2	○			○			○	
10	○		一般構造Ⅱ	鉄筋コンクリート造の骨組み・仕上げについての仕組み学習する。 ・鉄骨造の骨組み・仕上げについての仕組み学習する	2前	16	1	○			○			○	
11	○		建築材料	木材、木材加工品、コンクリート（セメント、骨材）、鋼材、その他の金属、タイル、ガラス、防水材、塗材などの種類とその特徴を学習する	1通	32	2	○			○		○		

12	○		建築施工Ⅰ	施工計画、管理計画、地盤調査、地盤調査の方法、仮設工事、地業及び基礎工事鉄筋コンクリート工事、鉄筋工事、補強コンクリートブロック工事、レンガ工事について学習する学ぶ	1通	64	4	○			○		○					
13	○		建築施工Ⅱ	組立式鉄筋コンクリート工事、木工事、防水工事、屋根工事、左官工事、タイル工事、石工事、塗装工事、金属工事、建具工事、ガラス工事、内装工事、施工機械器具、施工用語	2前	32	2	○			○						○	
14	○		インテリア実務	壁紙、カーテン、床材などの数量をひろい、見積書作成の知識を習得する	2後	32	2		○		○						○	
15	○		建築法規Ⅰ	建築基準法、同施行令、総括規定、雑規定、単体規定、都市計画法、その他の設備関係規定を学習する	1通	64	4	○			○						○	
16	○		建築法規Ⅱ	建築基準法、同施行令、集団規定、建築士法、消防法、建設業法を学習する	2通	32	2	○			○						○	
17	○		カラーコーディネーション	色彩の基礎を演習を通して学び、カラーコーディネーター検定試験を受験する。	1後	96	6		○		○						○	
18	○		ディスプレイ演習	インテリアコーディネーター資格試験（技術編）対策を通し、インテリアの知識を養う。1次試験後は2次対策も行う。	2後	48	3		○		○						○	
19	○		設計製図A	建築製図法、木造図面の書き方（平面図、断面図、立面図）を学習し、オリジナル木造住宅の作図を行う	1通	96	6			○	○						○	
20	○		設計製図B	RC造の図面の書き方（平面図、断面図、立面図）を学習し、RC造特殊建築物のプランニング及び作図を行う	1後	48	3			○	○						○	
21	○		建築CAD設計Ⅰ	CADの基本操作を学んだ後、建築図面の表現方法を学習する。・S造の一般図の書き方（平面図、断面図、立面図）を学習する	1通	96	6			○	○							○
22	○		インテリア実習Ⅱ	インテリアの基礎知識を学ぶ。素材を切り貼りしてインテリアボードを作成。	2通	96	6			○	○							○
23		○	インテリア実習Ⅰ	インテリアの基礎知識を学ぶ。素材を切り貼りしてインテリアボードを作成。	2通	96	6			○	○							○
24		○	コーディネータ実習Ⅲ	インテリアコーディネーター1次試験対策。インテリアエレメントを中心に、設備機器や建物の構造や仕上げ材など、建築に関わる知識を習得する。	2前	96	6		○		○							○

